

## MTとは “愛”である。

モータージャーナリスト、レーシングドライバー、そしてチューナーと多方面で活躍する太田哲也が、世の中に自らのオピニオンを直球で発信し世相を斬る「オレの話を聞け!」。第5回は、マニュアルトランスマッシュョン(MT)について持論を展開。ATやツインクラッチ技術が大幅な進歩を果たしているにも関わらず、いまなお生き残るMTの魅力を語る。

TEXT・太田哲也(Tomoya Ota)  
PHOTO・市 健治(Kenji Ichi)

# オレの話を聞け! 太田哲也の



### 21年ぶりにMTを国内設定

メルセデス・ベンツSLK200ブルーエフィシエンシィMTは、国内に正規輸入されたメルセデスモデルとしては実に21年ぶりとなるマニュアルトランスマッシュョン搭載車。ユーザーからの「MTでメルセデスを走らせたい」という要望は常にあり、今回はタイミングも合って導入に至ったとのこと。もちろん、燃費性や快適性能などはATが上回るが、利便性面にとらわれないニーズがMTにはある。



**Q** メルセデス・ベンツSLKにMT仕様が追加されました。安楽志向のベンツにMTって変だなと思いますけど、時代の流れに逆らつた突然変異なのでしょうか?

**A** 確かにメルセデスってMTのイメージはないよね。オレの

中でメルセデスが造るスポーツカーは、どちらかというと汗をかいて楽しむのではなく、カッコよくスマートに乗りこなすイメージだ。確かにMTだと合わない気がして、実際に乗ってみた。クルマ自体はやっぱり既存のメルセデスだったけど、シフトタイミングを計るために自然と回転昇昇に気を配り、加速や燃費向上の意識も高まる。運転する楽しみが増えた。

「突然変異」に関しては、オレは迷いもなく、電子制御でデジタル化が進み、その反動でアナログ要素を求める気持ちが強まつたんじゃないかなと考えている。だから最近ちょっととしたMTブームなのではないかと

86/BHZで売れているのは圧倒的にMTだし、マツダ・アテンザはディーゼルが約7割、そのうちMTが約1割を占めているらしい。主査の「自分が乗りたくてMTをラインアップした」というコメントが伝わってくる。本心だひとうつ語だね。

アルファロメオ・シリヨンタQVは、販売員から「久々のアルファのMTですよ」と勧められて購入するユーザーが結構いるんだ。また、ルノー車の中で日本で一番売れているのはカングーだが、その約2割もがMTだそうだ。

こうした人たちが何故MTを選ぶのかというと、それはもはや「速いから」ではないだろう。最近はツイ

シクラツの速いツーペダルが普及してきた。MTを選んでいる多くの人は「速さ」ではなく、だからと言って省燃費性だけを求めているわけでもないだろう。それだったらCVTがある。キーワードはやっぱり楽しさだろう。

**Q** ではなぜ楽しいのでしょうか？（編集部）

MTモデルは身体全体を駆使して運転するため、クルマとの一体感や緊張感を深めやすい。そこには様々な機械やモノを超えたパートナーとしての感覚があつてくる。これは「愛」だ。

**A** その前になぜMTではなくATを選ぶ人が多いのかというと、やっぱり面白くさいからだろう。

でもその煩わしさの解消を求めてどんどんいくと、運転自体が面白くない。誰か運転してもらえないか、となりはしないか。そんな欲求の延長上にあるのが自動運転化だろう。実際に今の自動車の大きな流れは自動化に向かっている。

スバルのアイサイトで有名になっている、追突防止の自動ブレーキも、VW、ボルボ、三菱など多くのメーカーが、システムの違いはあれど取り入れて

クルーズコントロールで前車追従車線逸脱警報装置も普及し始めている。先日、新型メルセデスEクラスに乗ったが、ついにカーブでハンドルを切ってくれる装置も付いた。公共交通で体験してみたけど、クルーズコントロールを入れて前車をロックオフすれば、後はアクセルもブレーキもハンドル操作もしなくても、勝手にクルマがハンドルを切って走っていく。前車が止まつたら勝手に止まる。ただたまに車線を間違えるし、赤信号でも停まらず突入しようとから眠るわけにはいかないけど、でも眠くなりそうかなあ。

赤信号でも停まらず突入しようとから眠るわけにはいかないけど、でも眠くなりそうかなあ。きっと未来はナビに目的地を入れたら勝手に走りやすくなるのかな。便利だけど、それはそれで原発のように何か予期せぬ別の問題も出てきそうだ、ちょっと怖い。

自動運転は電子制御の発達によってなされたものだ。こうしたデジタル化への反動でMTがまた新たに脚光を浴びてきたのではない。かと重つ。

**Q** もう今となつてはMTは必要ないのではないかというご意見を見をおっしゃる方もいらっしゃいますが、太田さんはどう思いますか？（自動車メーカー広報マン）

**A** 忘れてならないのは、人間は身体や頭を使っていると免疫力が上がり活性化されるということ。三浦雄一郎さんはエベレスト登頂を目指したトレーニングを始めたが、それが見られないことがMR-1で確認済み。歳をとつたからこそ頭を使い活動した方がよいのだ。だから高齢化社会に向けて政府はMTを普及させるべきだとオレは主張する（キラリ）。

**Q** MTつてもう速くはないじや

ンクルーズコントロールで前車追従車線逸脱警報装置も普及し始めている。先日、新型メルセデスEクラスに乗ったが、ついにカーブでハンドルを切ってくれる装置も付いた。公共交通で体験してみたけど、クルーズコントロールを入れて前車をロックオフすれば、後はアクセルもブレーキもハンドル操作もしなくても、勝手にクルマがハンドルを切って走っていく。前車が止まつたら勝手に止まる。ただたまに車線を間違えるし、赤信号でも停まらず突入しようとから眠るわけにはいかないけど、でも眠くなりそうかなあ。きっと未来はナビに目的地を入れたら勝手に走りやすくなるのかな。便利だけど、それはそれで原発のように何か予期せぬ別の問題も出てきそうだ、ちょっと怖い。

自動運転は電子制御の発達によってなされたものだ。こうしたデジタル化への反動でMTがまた新たに脚光を浴びてきたのではない。かと重つ。

**Q** もう今となつてはMTは必要ないのではないかといふ意味がないと悟つんですけど。

**A** メーカーは、ツインクラッチは人の操作より優先だと確信するけど、それはあくまでモトランミッションの物理的能力の話で、量産車は耐久性を考えて、システムの最大性能を出すことはしていない。だからスキルのあるドライバーだったらとくにシフトダウンなどでMTの方が速いケースは多くあるんだよね。まだまだMTは捨てたまんじやない。人がすこしきつてことかな。

**Q** ボクらクルマ好きにとって局のところクルマとは何んなのでしょうね？

**A** 道具ではあるよね。でも人は道具に愛情を持つ。あるいは道具と一緒に過ごすパートナーとして感情を抱く。浦沢直樹さんという漫画家が近来社会の様子を、高性能人間型ロボット（監査官）の目で「P-LUTO」を描いた。

発されたロボットが高度化し人間と同じように感情を持つようになった。すると人間とロボットの間で愛情の感情が生まれるようになつた。本来は無感情なロボットが感情を持つことで、人間とは何なのかを考えさせられる作品だ。

また道具は擬人化していく面もある。小惑星探査機「はやぶさ」はいつもものトラブルに見舞われ帰還を絶望視されつつも、それを乗り越えて地球への帰還を目指す。小惑星「イтокアワ」から採取されたサンプル容器が収められたカプセルは、はやぶさから切り離されてバラシユートに吸収され、その後はやぶさ

本体は大気圏に入りた時点で燃え尽きる。そこに自己犠牲の感情を重ねる人々がいて、美談として受け止められた。

結局MTってクルマというモノと声を掛けられると、面白く感じる。乗る前に自分に「楽しいぞ！」

いい、FRがいい、MTが最高といふ世界人がいるけど、実際に乗っているのはアメリカーなんてことにならないですかね。

**A** オレは今2台のMT車を持つ

ているけど、AT車との乗り替えで、面白くないと楽しいは紙一重だ。乗る前に自分に「楽しいぞ！」

音を掛けられると、スポーティーではなんともMTモデル多數用意されている。現在ではAT限定先着順が大勢を占めるといえ、「クルマはMTでないと」という壁が確実に存在するのは、MTを通じてクルマに愛情を感じるためかもしれない。

Q 太田さんはMTに乗っているのですか？ スポーツカーがいい、FRがいい、MTが最高といふ世界人がいるけど、実際に乗っているのはアメリカーなんてことにならないですかね。

A オレはさびしがり屋なのかも



**Q** MTつてもう速くはないじや

**Q** クラック（ツインクラッチ）なんかの方が速いし。何

**Q** MTつてもう速くはないじや

**Q** ないです、DSG（ツインクラック）なんかの方が速いし。

**Q** MTつてもう速くはないじや

**Q** ないです、DSG（ツインクラック）なんかの方が速いし。

**Q** MTつてもう速くはないじや

**Q** ないです、DSG（ツインクラック）なんかの方が速いし。

**Q** MTつてもう速くはないじや

**Q** ないです、DSG（ツインクラック）なんかの方が速いし。



## 近況報告

次回の「Tetsuya OTA先生ENJOY & SAFETY DRIVING LESSON」は、9月6日(日)に袖ヶ浦フォレストレースウェイにて開催予定です！ 詳細は、随時ウェブにてアップしていきますので、ご覧ください。安全とマナーを大切に教習場から学び、サーキットで走ってみる好評のイベントです。どうぞ期待！ <http://www.sportdriving.jp> また、袖ヶ浦への質問も募集しています。JR NAGOYA駅東口「オレの話を開け！」係までお問い合わせください。